

### 会議次第

平成29年6月14日（水）  
14:00～15:55  
大津合同庁舎7B会議室

#### 議題

平成29年度滋賀県総合教育会議の進め方について

#### その他

持続可能な開発目標（SDGs）について

### 平成29年度総合教育会議の年間テーマ

- 第1回** 平成29年度滋賀県総合教育会議の進め方について
- 第2回** 幼児教育段階から小学校段階等への系統だった校種間の接続
- 第3回** 地域で共に生きる特別支援教育の推進
- 第4回** 滋賀ならではの文化財や歴史を通じた滋賀の魅力を発信できる力の育成
- 第5回** 家庭・地域に密着した学校教育のあり方
- 第6回** 平成29年度滋賀県総合教育会議の総括

#### <会議の様子>

膳所高校書道部のみなさんに横断幕を書いていただきました。

安曇川高校書道部のみなさんにネームプレートを書いていただきました。

### 平成29年度総合教育会議の進め方について

平成29年度第1回滋賀県総合教育会議では、「平成29年度滋賀県総合教育会議の進め方について」をテーマに滋賀大学教職大学院より大野 裕己教授をお招きし、御助言をいただいた後に意見交換を行いました。

昨年度の総合教育会議における意見と総括を踏まえ、今年度は子どもたちの「多様性に寄り添う教育」をキーワードとし、左記の年間テーマを議論していく案について提示しました。

#### 主な意見等

#### 〇年間を通した子どもたちの多様性に寄り添う教育について

- ・多様性という言い方は周りから子どもを見たときの言い方である。子どもたちから見れば個性であり、本人たちは多様性とは認識していない。
- ・子どもたちの中には早咲きの子もいれば、遅咲きの子もいる。それぞれが違って素晴らしく咲けるようにすることが、本当に個性を伸ばすということなのではないか。
- ・集団の中で生きていくにあたっては、伸びしろとも言える弱みの部分を強みに変えていける教育が必要ではないか。

#### 〇本年度の滋賀県総合教育会議の進め方について

- ・多様性という言い方は再考する必要があるが、事務局案にある各回の具体的なテーマを議論していく中で、最後に多様性や個性とは何かを振り返って考えていくべきではないか。

#### まとめ

「多様性に寄り添う教育」の「多様性」という表現については、今後振り返って考えることとし、年間テーマ案に基づいて平成29年度滋賀県総合教育会議を進めていくことが確認された。

### 持続可能な開発目標（SDGs）について

議事に引き続いて「持続可能な開発目標（SDGs）について」をテーマに意見交換を行いました。

#### 主な意見等

- ・SDGsの目標達成のためには創造性が重要である。教育においては、アクティブラーニング等が子どもたちの創造性や課題分析をする力の育成につながるの、今後どう現場の教育を変えていくかが重要になってくるのではないか。
- ・滋賀で育ち、滋賀で家庭をつくるという環境をつくるということが持続するという目標には必要ではないか。
- ・琵琶湖の変化等子どもたちが身近なところに気が付き、何をすべきか考えるということもSDGsに繋がっているのではないか。
- ・教育に関してはESD（持続可能な開発のための教育）としてすでにやってきていることであり、すべて背伸びして新しいことをやるわけではなく滋賀県がやってきたこと、やろうとしていることを世界の共通言語で再評価してもらえるとよい。
- ・滋賀県としては新しい豊かさを作り、琵琶湖新時代を発信していくための一つのツールとしてSDGsに参画している。

# 平成29年度第2回滋賀県総合教育会議の結果について

## 会議次第

平成29年 7月25日 (火)

13:30～15:30

滋賀県大津合同庁舎 7 C会議室

### 議題

子どもたちの学びをつなぐ取組について

- ・学年間の学びの接続と教科間連携
- ・校種間の系統だった接続



本年度は年間を通じて子どもたちの個性やその多様性に寄り添う教育について様々な観点から議論していくことを第1回会議にて確認されました。その内容を踏まえ、第2回会議では「子どもたちの学びをつないでいくために何ができるのか」という観点から、前半に学年間の学びの接続と教科間の連携、後半に校種間の系統だった接続について意見交換を行いました。

## 1. 学年間の学びの接続と教科間連携

事務局から学年間の接続や教科間連携の現状を説明した後、学校現場での取組について滋賀大学教職大学院 村田 耕一准教授、畑 稔彦准教授より説明をいただき、意見交換を行いました。

### 主な意見等

- ・なぜ学年間・教科間の連携が必要か。算数・数学の問題を解く場合、問題文を読み、理解する力が求められ、国語をはじめ他の科目の力も身につける必要があり、総合的な力が必要になる。
- ・例えば「環境」を学ぶとき、小学校は学級担任制であり先生自身が授業を工夫されるが、中学校・高校は教科担任制のため、どの教科で教えるか調整が必要になる。内容により、社会だけの一教科のみでなく理科等の複数の教科との連携も必要になる。
- ・今後は、いろいろな知識を働かせて考える課題解決型の学習が求められ、次期学習指導要領で示されているカリキュラムマネジメント（教科横断的な授業の促進）による授業づくりが重要になる。

## 2. 校種間の系統だった接続

校種間の系統だった接続の状況について事務局から説明した後、県立守山中学・高等学校 吉澤 加寿子 校長より公立学校における取組、近江兄弟社高等学校 藤澤 俊樹 校長より私立学校における取組を提供いただき、意見交換を行いました。

### 主な意見等

- ・小中高と進む中で、次の学校で何を学ぶのか見越し、あるいは前の学校で何を学んできたのかを踏まえるなど、校種間を超えた全体の見通しを立てることが大切である。
- ・学校が変わるということは環境が変わるということ。その場面で不適応が起こる可能性もあるが、新しい人間関係等により子どもたち自身が伸びる時期でもある。今後は、そこをサポートできるような連携や支援が必要になってくる。
- ・多様化している幼児期の学びの芽生えを、学びの基礎段階である小学校につないでいくことが重要である。小学校から中学校、中学校から高校の接続についても、地域・公私を超えて考えていく必要がある。

# 平成29年度第3回滋賀県総合教育会議の結果について

## 会議次第

平成29年 8月31日 (木)

14:00～16:15

県庁北新館 3階中会議室

### 議題

インクルーシブ教育システムの構築に向けて  
～地域で共に生きる特別支援教育の推進～



県内の高等  
養護学校の  
生徒のみなさ  
んの作品を展  
示しました。



## インクルーシブ教育システムの構築に向けて ～地域で共に生きる特別支援教育の推進～

はじめに、障害のある子どもたちの特性を理解するための体験活動を行い、事務局から滋賀県でのインクルーシブ教育システムの構築に向けた多様な学びの場について説明した後、長浜養護学校 原 一正教頭、守山北中学校 松田 充史教諭より学校現場での現状を説明いただき、意見交換を行いました。

### 主な意見等

#### 1. 多様な学びの場としてどのような場を準備していくか

- ・多様な学びの場を提供していくことが必要だが、障害の特性は一人ひとり様々なので、保護者の方々とよく意見交換し、保護者と学校が思いを共有することが大切である。
- ・地域の学校と特別支援学校の両方に学籍を持つ副次的な学籍の研究が進められているが、学校卒業後も、引き続き地域社会で生活していくことから、地域全体で障害のある子どもたちを見守れる社会になれば素晴らしい。
- ・教員は基本的に在籍している学校の子どもを指導するが、地域で学ぶ障害のある子どもたちすべてが地域の学校と特別支援学校の両方に在籍して、指導を受けられるようにしてはどうか。
- ・子どもだけではなく、教員が地域の学校と特別支援学校の両方に在籍する、という考え方もある。

#### 2. 多様な学びの場における課題

- ・特別支援学級や通級指導等での教員の特別支援教育に関する専門性について、教員養成課程の段階、あるいは、教員として現場に出てからある程度の経験を積んだ段階など、どの時点から向上させていくか。
- ・小学校低学年から高学年、中学校へと学年が上がるにつれ、小中学校と特別支援学校での学習内容の差が大きくなったり教科担任制となるので、副次的な学籍によって地域で共に学ぶ場合には環境づくりをどう工夫していくか。
- ・地域で共に学ぶということを考える上で、中学校は複数の小学校から子どもたちが集まってくることから、子どもたちにとっての「地域」をどう捉えていくか。
- ・就学前では、幼稚園・保育所等で過ごすことが大切であるとの考え方と、支援を必要とする乳幼児が発達支援センター等で早い段階から療育を受けるとともに、保護者の障害特性への理解促進にもつながることが重要であるとの考え方がある。子どもの安定と保護者の思いの両面から考える必要がある。



# 平成29年度第4回滋賀県総合教育会議の結果について

## 会議次第

平成29年12月26日（火）

14:00～16:15

滋賀県大津合同庁舎 7B会議室

### 議題

1. 子どもたちが滋賀に触れ、滋賀を愛し、滋賀を豊かにする力を育むために  
～「滋賀ならではの」を生かした教育活動の推進～
2. 社会全体で子どもたちを育てる滋賀の教育を目指して

八日市高校書道部のみなさんに横断幕を書いていただきました。



本年度は年間を通じて、子どもたちの個性やその多様性に寄り添う教育について様々な観点から議論していくことを第1回会議にて確認されました。その内容を踏まえ、第4回会議では前半に「「滋賀ならではの」を生かした教育活動の推進」について、後半には「社会全体で子どもたちを育てる滋賀の教育」について意見交換を行いました。

### 1. 子どもたちが滋賀に触れ、滋賀を愛し、滋賀を豊かにする力を育むために ～「滋賀ならではの」を生かした教育活動の推進～

事務局から県内の地域学習の現状を説明した後、学校現場での取組について大津市立真野北小学校 山元 千恵子 校長 より説明をいただき、意見交換を行いました。

#### 主な意見等

- ・自分の地域の魅力を知ると他の地域と比べられる力もつく。また、他の地域を知ることには自分の地域を知る上でも大切である。
- ・地域のことを地域で大切にすることは重要であるが、他の地域や世界と繋げ、開かれたものにすれば、持続可能な地域につながる。
- ・コミュニティ・スクールによって、学校の取組を地域に発信するのみならず、学校運営方針の承認等で地域の方が学校に関わってくれるようになり、地域との関係がより強くなった。
- ・自分たちの地域、滋賀の魅力に気づくことができるよう教員、学校が感性を磨き、またそういったことに気づくことができるゆとりが必要である。

### 2. 社会全体で子どもたちを育てる滋賀の教育を目指して

事務局から子どもたちの生活習慣や家庭での時間の現状等の説明をした後、滋賀ダイハツ販売株式会社 取締役 平尾 香子 氏より企業としての立場、また保護者としての立場から話題提供をいただき、意見交換を行いました。

#### 主な意見等

- ・子どもに「褒める」、「叱る」ということは、家庭で愛情をもってするからこそ成り立つ。子どもたちの生活習慣等の基礎が家庭で作られることで、学校での教育にもつながる。
- ・家庭での親子の対話があってこそ生活習慣等が培われる。例えば、スマートフォンについても、取り上げてしまうのではなく、親子のコミュニケーションの手段として、今あるものを有効に活用するという前向きなメッセージの発信が必要。
- ・幼児期からの過ごし方も非常に重要であり、家庭での教育のあり方についても考える必要がある。
- ・家庭に対して教育行政がどのように関わっていくかは非常に難しい。

